

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和特別支援学校（知的障がい部門）

学校番号 (53)

評価実施日		令和8年2月6日（木）					
委員	氏名	所属等	備考	委員	氏名	所属等	備考
	高橋 信雄	学校評議員			赤松千香子	P T A 会長	肢体不自由部門
	渡邊 展也	学校評議員			中川 実香	P T A 副会長	肢体不自由部門
	上中 保博	学校評議員			梅田 智子	P T A 会長	知的障がい部門
	岩瀬 憲治	学校評議員			岡原 枝麻	P T A 副会長	知的障がい部門
	黒田 道代	学校評議員			赤岡 茂美	P T A 副会長	知的障がい部門
	酒井 正則	P T A 会長	聴覚障がい部門		梶谷 直美	P T A 副会長	知的障がい部門
	松本 史恵	P T A 副会長	聴覚障がい部門				

評価・提言等	提言に対する改善方策等
今年度の最終評価について 1 学習指導 地域でインクルーシブ教育を推進していく中で、交流及び共同学習の充実是不可欠な要素である。多様な背景や特性をもつ子どもたちが、互いに関わり合う機会を意図的に増やすことで、相互理解や共感の心が育まれ、学びの幅も広がっていく。また、ただ一緒に過ごすだけでなく、一人ひとりの学びの目標を明確に設定し、それに向かって主体的に取り組む力を育てることも大切である。このような取り組みを通じて、すべての子どもが安心して学び合い、共に成長できる地域社会の実現を目指していただきたい。 ユニバーサル公演「星の王子さま」を鑑賞した。児童生徒が役者と一緒に舞台上がり、自分らしく表現をする様子を見て、演劇を通じて表現力の向上が図れた良い取組であった。今後も、児童生徒の向上心を伸ばすような指導の充実に努められたい。 2 生徒指導 体育的活動、文化的活動について、素晴らしい成果をあげている。今後も様々な教育活動の中で、児童生徒が持っている力を最大限発揮できるように、能力を見出したり伸ばしたりしてほしい。また、卒業後の生活を見据え、余暇活動の充実に努めていただきたい。地域等で取り組んでいるような情報等があれば、共有いただきたい。 3 進路指導 卒業後の進路状況について、丁寧なトレースを行い、生徒がどのような仕事や生活を送っているのか、保護者への継続的な情報提供をお願いしたい。南予地域ではパソコン関連の就業先が非常に限られており、中予・東予地域への就職を余儀なくされるか、就職自体を断念せざるを得ない状況が続いている。自治体や関係機関と連携し、地域内での就労機会の拡充に向けた情報提供や働きかけをお願いしたい。技能検定への取組は大変充実している。今後も生徒が明確な目標を持って努力できるよう、支援の充実をお願いしたい。	- 本校は、県立特別支援学校における居住地校交流の実施率は53.6%と県内で最も高く、これまでも、積極的に交流及び共同学習の推進に取り組んできた。今後も、その充実に努めるとともに、それぞれの児童生徒が自分の役割や目標を持ち、主体的に学びに向かえるような環境づくりを進めていく。また、宛先の担当者と綿密に連携を図りながら、本校の児童生徒がそれぞれの場面で自信を持って活躍できるよう、活動内容や支援体制に工夫を凝らしていきたい。 - 本校が今年度まで3か年に渡り文化庁から受託していたユニバーサル公演について、3部門合同で実施した。児童生徒のコミュニケーション力や挑戦力の向上を図ることができた。今後も地域等との連携を深めながら、文化芸術の魅力に触れる場を提供していきたい。 - 体育的活動や文化的活動をとおして、児童生徒が主体的に取り組む、日々成長している。今後も一人ひとりの個性や可能性を大切にしながら、持っている力を最大限に発揮できるよう、きめ細やかな支援に努めていきたい。寄宿舎ではeスポーツに取り組む、事業所や他の特別支援学校と交流をしている。その成果について検証し、発信をしていきたい。 - 進路課員や就労支援コーディネーターを中心に、相談支援専門員等と連携を図り、卒業後3年間は、アフターフォローを行っている。今後も、行政等さらに連携を取りながら、定期的に卒業生を巡回し、支援を行っていききたい。また、就労先の情報提供の充実を図っていききたい。県立特別支援学校における技能検定への参加者数は県内で最も多い。引き続き、多くの生徒が技能の習得に努めることができるよう、指導体制のさらなる充実を図っていききたい。

4 センターの機能 南予唯一の特別支援学校として、地域の学校に対する相談支援や研修支援などを行い、センター的機能を果たしており、コーディネーターの先生方の役割は非常に大きい。保護者が気軽に相談できる支援体制を整え、市町の関係機関や相談支援専門員等との連携を図りながらさらなる充実を図ってほしい。 通級指導教室は貴重な存在であり、今後に残して欲しい。それを利用する児童生徒にとって、自分の力を最大限に発揮できるように、教室の充実もお願いしたい。 5 研修 年6回の研修日の設定や学校訪問研修、外部講師を活用した研修など、教職員のニーズを踏まえた研修が行われている。特に、今年度行われた「校務における生成A I」の活用など、働き方改革にもつながると考える。今後も、さらなる研修の充実を図られたい。 6 学校安全 防災においては、ショートの実験訓練や予告なしの実験訓練、起震車を用いた体験など、工夫を凝らした計画的な取り組みを行っている。舎生にとっては、学校と保護者の居住地が離れているため、不安を感じることも少なくない。そのため、自治体間の連携や学校との情報共有を強化し、緊急時における迅速かつ的確な対応体制の構築をお願いしたい。 7 働き方改革 授業や学校行事など、児童生徒一人一人を手厚く指導していただいていることに感謝をしているが、その分教員の負担がとても大きいと感じている。働き方改革に十分留意し、教職員の健康管理に十分注意をしていただきたい。	・本年度は、特別支援コーディネーターを合わせて17名指名している。高校や関係機関への相談件数も増えており、本校の果たす役割は大きい。校内O J Tを行い、相談等に複数で当たるなど、校内で工夫をしながら、その充実にも努めているところである。通級指導教室については、その意義等も充分認識しているところであり、今後も県教育委員会と情報を共有していきたい。教室に関わる先生方の充実を図り、専門性の向上にも努めていきたい。 ・研修の充実により学びを深めることは、我々教職員の使命であり、専門性の維持・向上の観点からも、今後も積極的に取り組んでいく。生成A Iの研修については、教職員も手探りであったが、ICTリテラシー向上や教材作成の効率化だけではなく、児童生徒への適切な使用方法を教えるための機会となった。 ・避難訓練については、避難訓練後に非常捜索訓練を行うなど、震災を想定しての動きの確認を行い、消防署からの助言をいただくことで、充実を図った。知的部門は西予市の指定避難所になっており、年に1回、西予市の防災担当者と協議をしている。本校の現状を伝え、自治体間の連携や情報共有についても、依頼をする。 ・本校の現状として、特定の教職員の勤務時間外労働時間が長いという現状がある。今後は、校内での業務分担の見直しや、業務の効率化を図る取り組みを進めていきたい。また、教職員一人ひとりの勤務状況を定期的に確認し、必要に応じて面談を行うなど、健康管理にも努めていきたい。児童生徒のために、教職員が心身ともに健康に勤務できる環境づくりを目指し、働き方改革の推進に取り組んでいく。
---	---